

モーセ

聖徒たちと歩む聖書 ~28~
モーセ その2

「派遣された 神の代理人」

出5~11章 パロとの対決・エジプトに下る災い

【今日のアウトライン】

0. ふりかえり

I. エジプトへ

出4章

II. パロとの交渉

出5章

III. 確認される使命

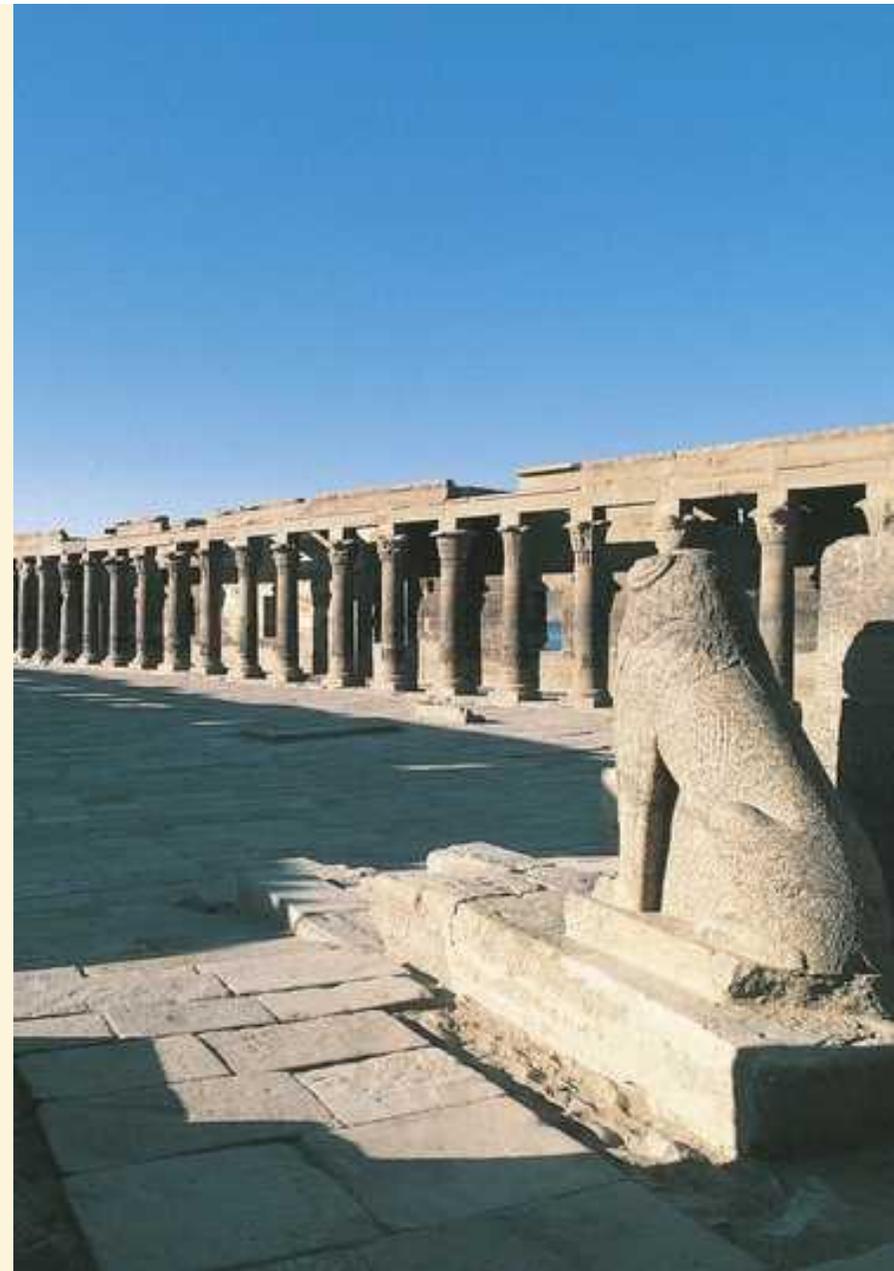
出6章

IV. 下される災い

出7～10章

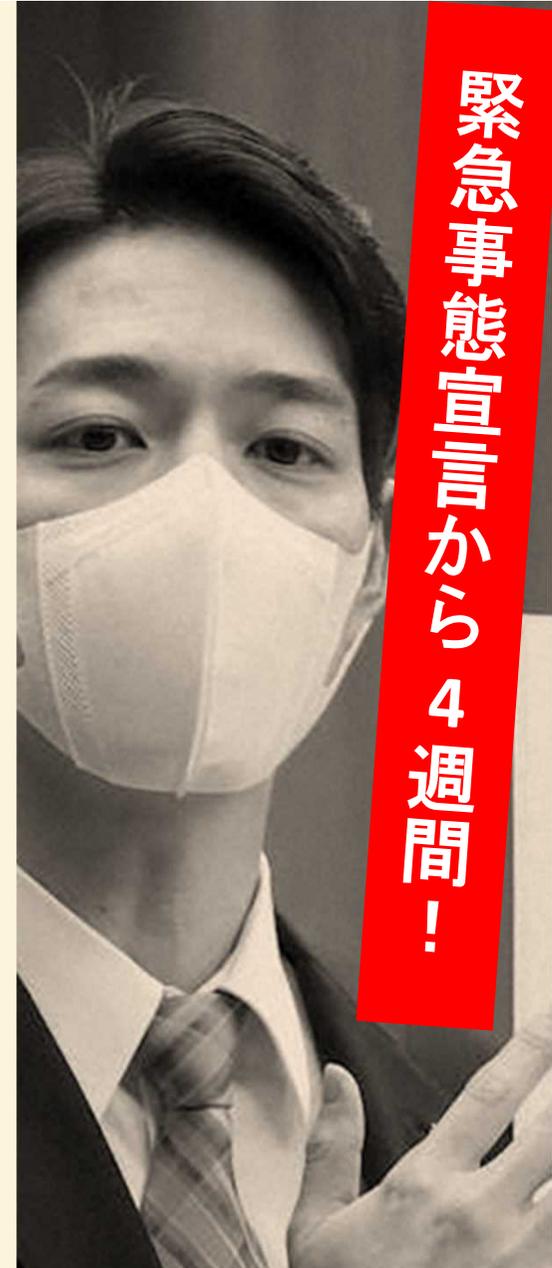
V. まとめと適用

偶像から解放されて、
神の自由を味わおう



【北海道・十勝の現状を確認しよう!!】

- 岐阜県よりも広い十勝だが、いまだ感染確認は一名。
- 次週4月から、会堂での礼拝を再開します!!
4月5日は、礼拝のみ。食事はなし。
4月12日のイースター。愛餐会は、お弁当を注文して。
★体調の確認と、入室前の手洗いを徹底しましょう。
- バイブルスタディ、帯広は、4月9日(木)から再開。
新たに清水町でも、4月16日(木)から始めます!!
- 東京は、感染爆発の瀬戸際。世界的にも拡大の一途。
状況次第で、柔軟に対応していきます。変更もあり。



緊急事態宣言から4週間!

【すべては、アブラハムから始まった】

神は、
選びに応えたアブラハムを祝福され、
土地の授与と 子孫の繁栄を告げ、
その子孫から、全人類を救いに導く
メシアが誕生することを約束された。

この「アブラハム契約」は、
アブラハムから、イサク、
そして、ヤコブへと継承された。



【アブラハム契約とは？】

聖書全体を貫く、大原則

神の世界回復と人類救済計画の柱

【三つの主な条項】

①子孫の約束

②土地の約束

③祝福(地上の諸民族の祝福)の約束

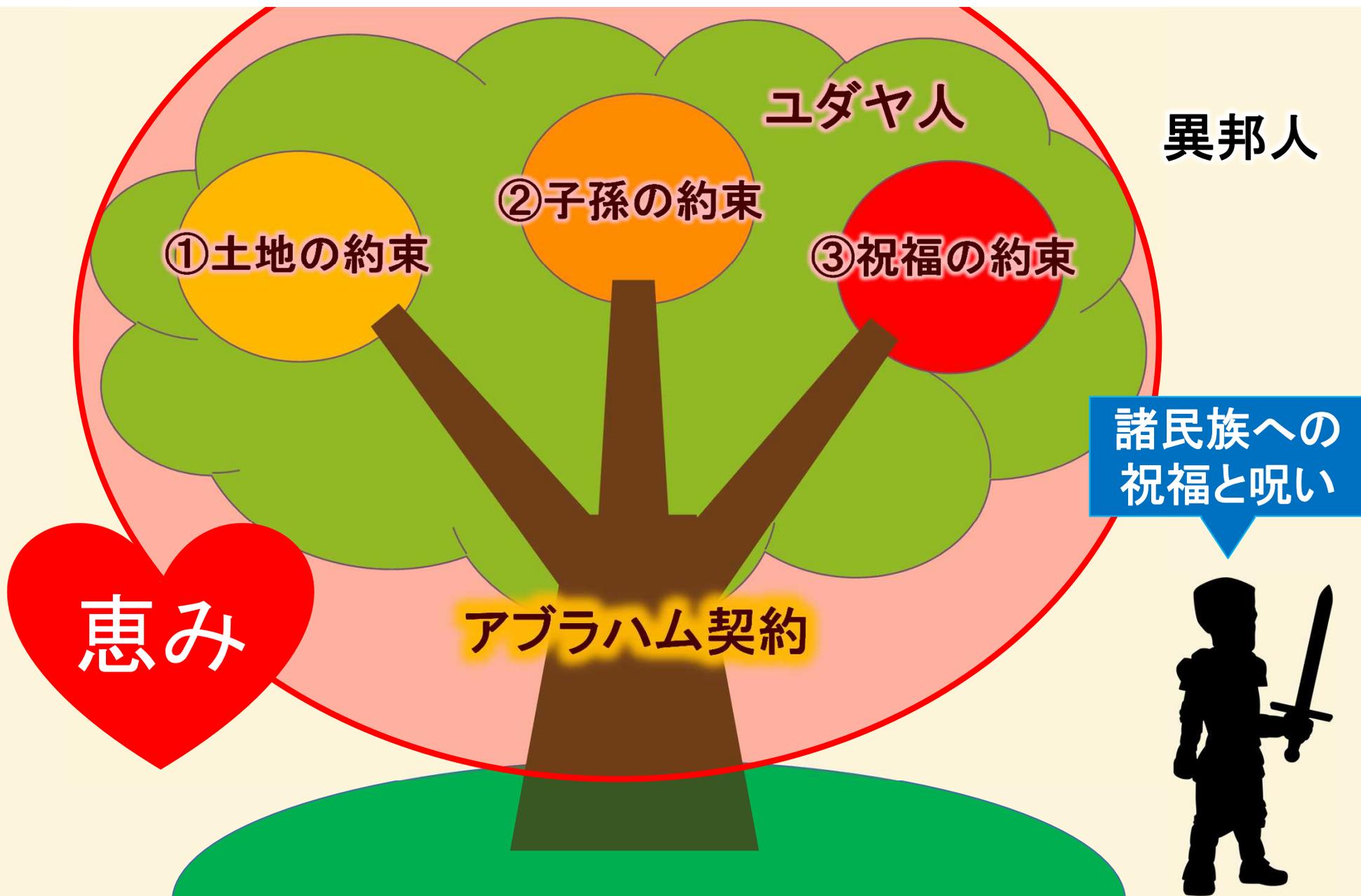
※付帯条項 ...祝福と呪い。イスラエルの生存保証。

※しるし ...割礼

イスラエルのエジプトでの400年も、
アブラハム契約のゆえに守られた!!



【アブラハム契約】

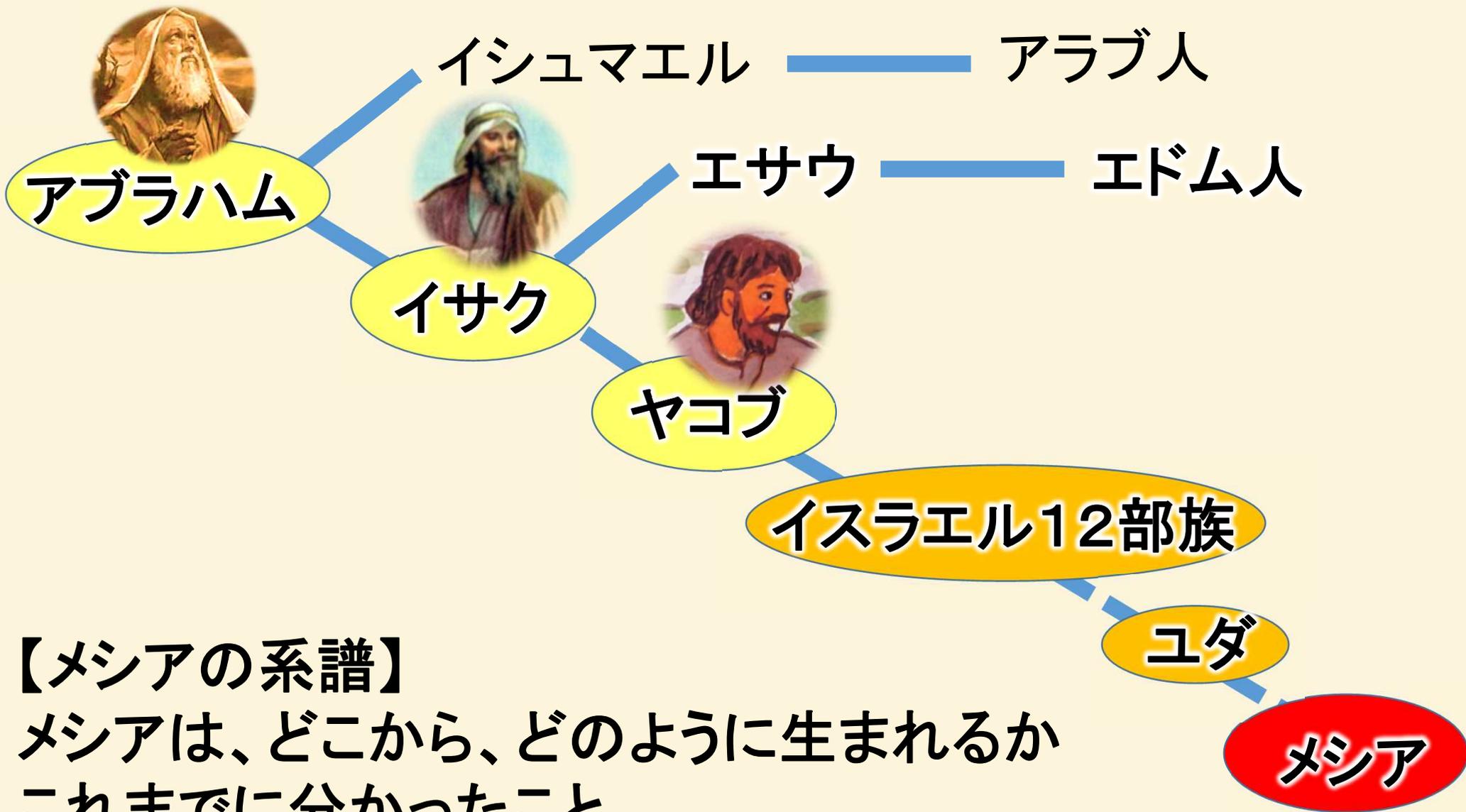


【予告された400年の奴隷の苦難】 創15:13～14

「あなた(アブラハム)の子孫は、自分たちのものではない国で寄留者となり、彼らは奴隷とされ、四百年の間、苦しめられよう。しかし、彼らの仕えるその国民を、わたしがさばき、その後、彼らは多くの財産を持って、そこから出て来るようになる。」

- およそ150年後、三代目のヤコブは、大飢饉を逃れて、エジプトへ移り住んだ。
- 豊かなエジプトの地で、奴隷の苦難を経ながらも、イスラエルは増え、民族として成長していった。





【メシアの系譜】

メシアは、どこから、どのように生まれるか
これまでに分かったこと。

★ イスラエルの歩み ★

【千年王国】

メシア再臨

エルサレム陥落 70

メシア初臨

【中間時代】

帰還・再建 前538

バビロン捕囚 前587

新しい契約

北イスラエル滅亡 前722

南北分裂 前950

ダビデ契約

【王国時代】

土地の契約

モーセ契約

出エジプト 前1290

【エジプトでの四〇〇年】

【荒野の四〇年】

【カナン定着・士師時代】

エジプトへ

【族長時代】

アブラハム契約

【モーセの誕生】 出エジプト記2章

- ヘブル人の男子をナイルに投げ込めと命じたパロ。
- モーセは、籠に入れられ、エジプトの王女に拾い上げられ、養子となり、王宮で育てられた。
- モーセの両親は、我が子に神の計画を見た?!
ヨセフのようなイスラエルの救出者となると期待?
- しかし、モーセは、40歳にして、エジプトを追われた。
解放者としての意気込みは、空振りに終わった!!

約束の時は近づくが、モーセはヨセフにはなれなかった!!



【モーセの召命】 出エジプト記3章

- 逃れた先で、ミデヤン人の娘と結婚したモーセ。
40年間を荒野で、羊飼いとして過ごした。
息子につけた名は、「ゲルシヨム(寄留者)」
- 燃える柴から、主はモーセに語りかけられた。
「わたしはある」という、神の名が告げられ、
イスラエルの指導者としての使命が与えられた。
- 80歳にして、神に召し出されたモーセ。
何も無い者を、あるという神が用いられて、
約束された神の計画が、いよいよ動き出す!!



0~40歳

奴隸の子として誕生

王の子として成長

逃亡者に 40才

ミディアン人の娘チツポラと結婚

40~80歳

荒野での羊飼生活

召命 80才

十の災い

出エジプト

80~120年

モーセ契約

民の反抗

荒野の四〇年

土地の契約

召天

【モーセの生涯】

I. エジプトへ

出エジプト記4章



【モーセの言い訳①】出4:1～9

モーセは答えて申し上げた。「ですが、彼らは私を信ぜず、また私の声に耳を傾けないでしょう。*『【主】はあなたに現れなかった』と言うでしょうから。」

* 40年前のトラウマ？ 民はモーセを解放者と認めず。

■ 主は、三つのしるしをモーセに与えた。

- ①手にした杖が、蛇(毒蛇・コブラ)となった。
- ②手がツァラアト(皮膚病)に冒され、瞬時に癒やされた。
- ③ナイルから汲んだ水が、血に変わった。

■ 神は、人々が恐れる毒蛇をも支配し、不治の病を癒やし、豊穡なナイル川を滅ぼすことさえできる方である。



【モーセの言い訳】出4:10～12

モーセは【主】に申し上げた。「ああ主よ。私はことばの人ではありません。以前からそうでしたし、あなたがしもべに語られてからもそうです。私は口が重く、舌が重いのです。*」

* そう言いつつ、言い訳は巧みに出てくるモーセ!!

【主】は彼に仰せられた。「だれが人に口をつけたのか。だれが口をきけなくし、耳を聞こえなくし、あるいは、目を開いたり、盲目にしたりするのか。それはこのわたし、【主】ではないか。

■ 主がモーセに、言うべきことを手取り足取り、教えられる!!



【モーセの言い訳②】出4:13～17

「ああ主よ。どうかほかの人を遣わしてください。」
すると、【主】の怒りがモーセに向かって燃え上がり*、
こう仰せられた。「あなたの兄、レビ人アロンがいるでは
ないか。わたしは彼がよく話すことを知っている。今、彼
はあなたに会いに出て来ている。」

* 義なる神は、不義に対して怒る神である。

■ 同時に、愛の神は、モーセになお、憐れみを示された。

兄アロンが、モーセの代弁者となり、共に遣わされる。

⇒すでにこちらに向かっているアロン。主が手配済み!!

■ 主に遣わされた先に、主が準備された出合いがある。



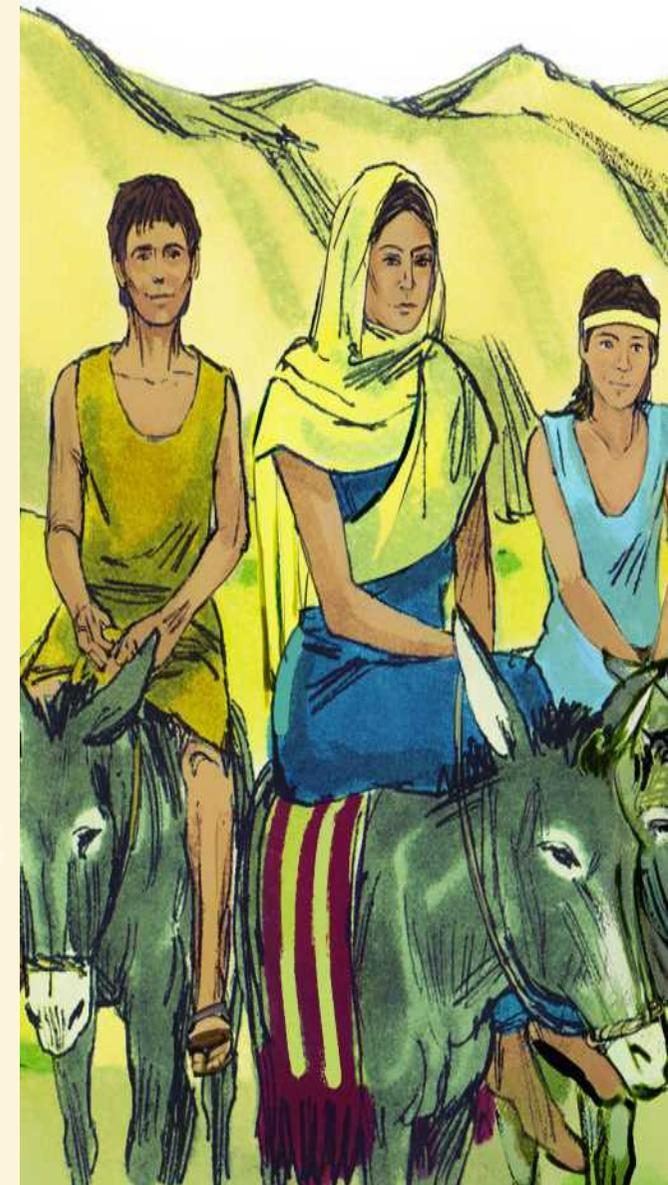
【エジプトに上るモーセ】 出4:18～24

【主】はミデヤンでモーセに仰せられた。「エジプトに帰って行け。あなたのいのちを求めていた者は、みな死んだ。」そこで、モーセは妻や息子たちを連れ、彼らをろばに乗せてエジプトの地へ帰った。モーセは手に神の杖を持っていた。

■モーセは、舅イテロにいとまを告げ、旅だった。

■主は、さらに、パロに話す内容をモーセに告げた。

『イスラエルはわたしの子、わたしの初子である。わたしの子を行かせて、わたしに仕えさせよ。もし、あなたが拒んで彼を行かせないなら、見よ、わたしはあなたの子、あなたの初子を殺す。』



【神の怒り】 出4:24～26

さて、途中、一夜を明かす場所でのことだった。【主】はモーセに会われ、彼を殺そうとされた。

そのとき、チツポラは火打石を取って、自分の息子の包皮*を切り、それをモーセの両足につけ、そして言った。「まことにあなたは私にとって血の花婿です。」

そこで、主はモーセを放された。彼女はそのとき割礼のゆえに「血の花婿」と言ったのである。

* 弟エリエゼル。...妻チツポラが割礼を嫌ったのだろう。

■ 割礼は、アブラハム契約のしるし。イスラエルの義務。

■ 神の約束を覚え、身に刻むもの。

⇒イスラエルの子孫から、メシアは誕生する!!



神の方法でなければ、
人は救われない

【エジプトに上るモーセ】 出 4:27～31

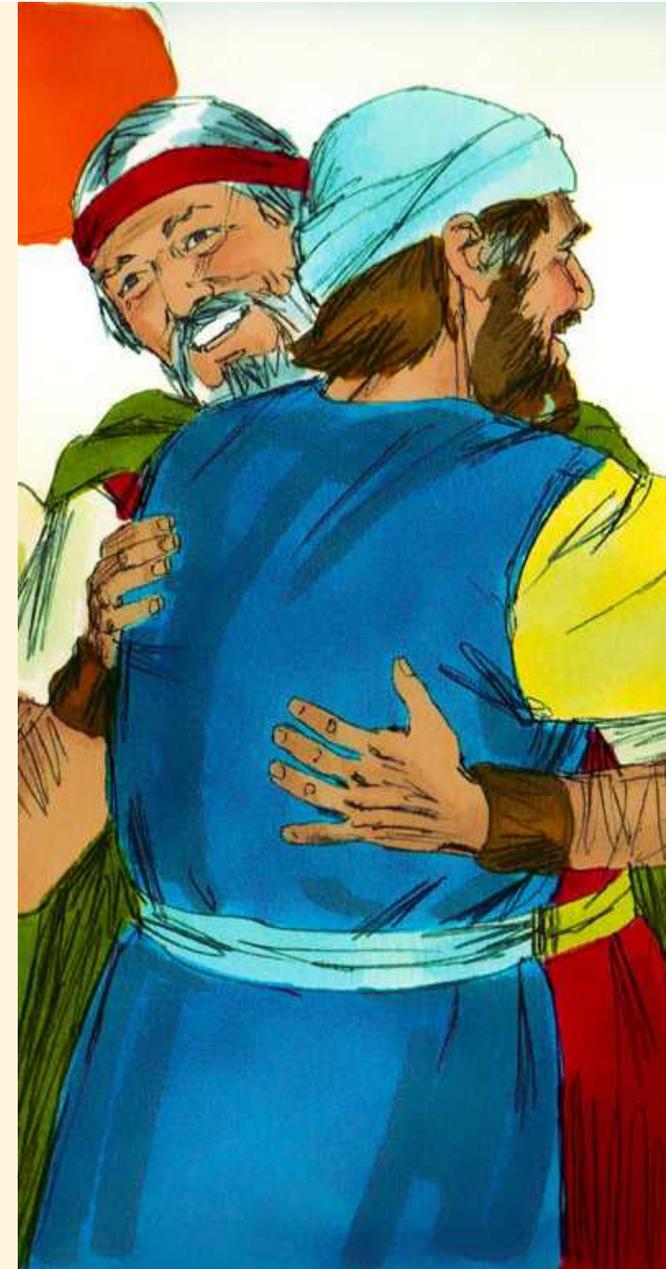
■ 妻子は、ミデアンに戻り、モーセ一人エジプトへ。

■ モーセは、兄アロンと40年ぶりに再会した。

それからモーセとアロンは行って、イスラエル人の長老たちをみな集めた。

アロンは、【主】がモーセに告げられたことばをみな告げ、民の目の前でしるしを行ったので、民は信じた。彼らは、【主】がイスラエル人を顧み、その苦しみをご覧になったことを聞いて、ひざまずいて礼拝した。

■ 民は信じた。いよいよモーセは、パロのもとへ!!



Ⅱ. パロとの交渉

出エジプト記5章

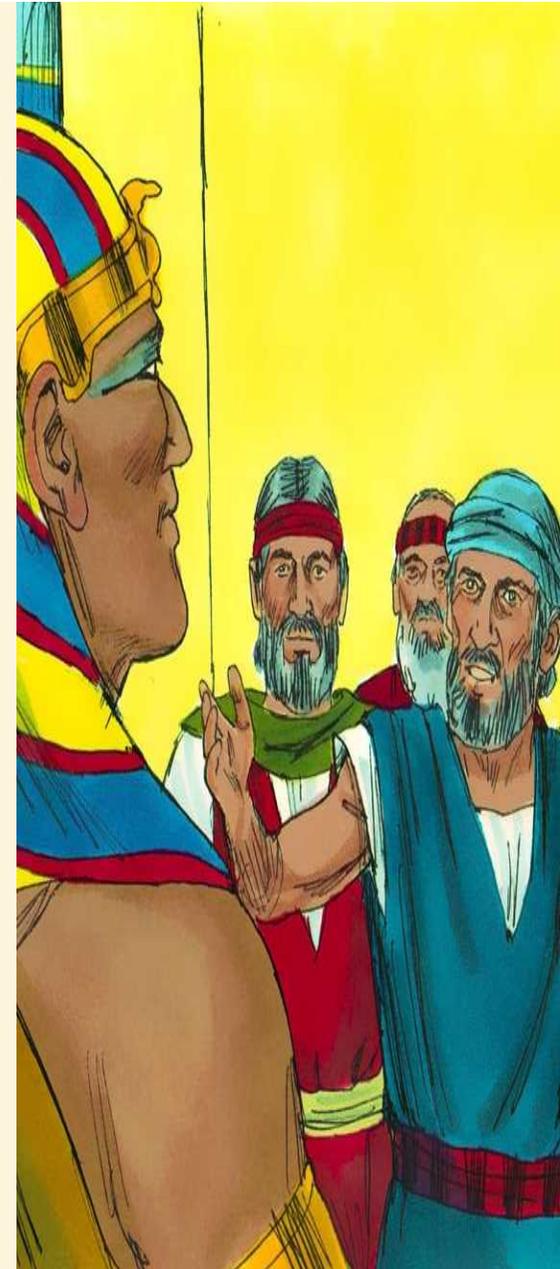


【パロに申し出るモーセ】 出5:1~2

その後、モーセとアロンはパロのところに行き、そして言った。「イスラエルの神、【主】がこう仰せられます。『わたしの民を行かせ、荒野でわたしのために祭りをさせよ。』」

5:2 パロは答えた。「【主】とはいったい何者か。私がその声を聞いてイスラエルを行かせなければならないというのは。私は【主】を知らない。イスラエルを行かせはしない。」

- 主に命じられた通りにパロに告げたモーセ。
- パロは、とりつくしまなく、拒んだ。
- パロは、エジプトの数百とも言われる神々の最高位。
「ヤハウエなどと名も知らない奴隷の神に従う必要はない」



【パロの命令】 出5:6～19

- パロは、労働から逃れようとしていると怒り、イスラエルの苦役を重くした。
- 日干しレンガ作りに必要なわらを与えず、仕事を増した。
(※わらと泥で化学反応を起こし、堅いレンガになる)

「彼らはなまけ者だ。だから、『私たちの神に、いけにえをささげに行かせてください』と言って叫んでいるのだ。あの者たちの労役を重くし、その仕事をさせなければならない。偽りのことばにかかわりを持たせてはいけない。」

- 理不尽な命令に困窮した人夫がしらたちが、パロに訴え出たが、全く聞き入れられなかった。



【イスラエルの叫び・モーセの叫び】 出5:20～23

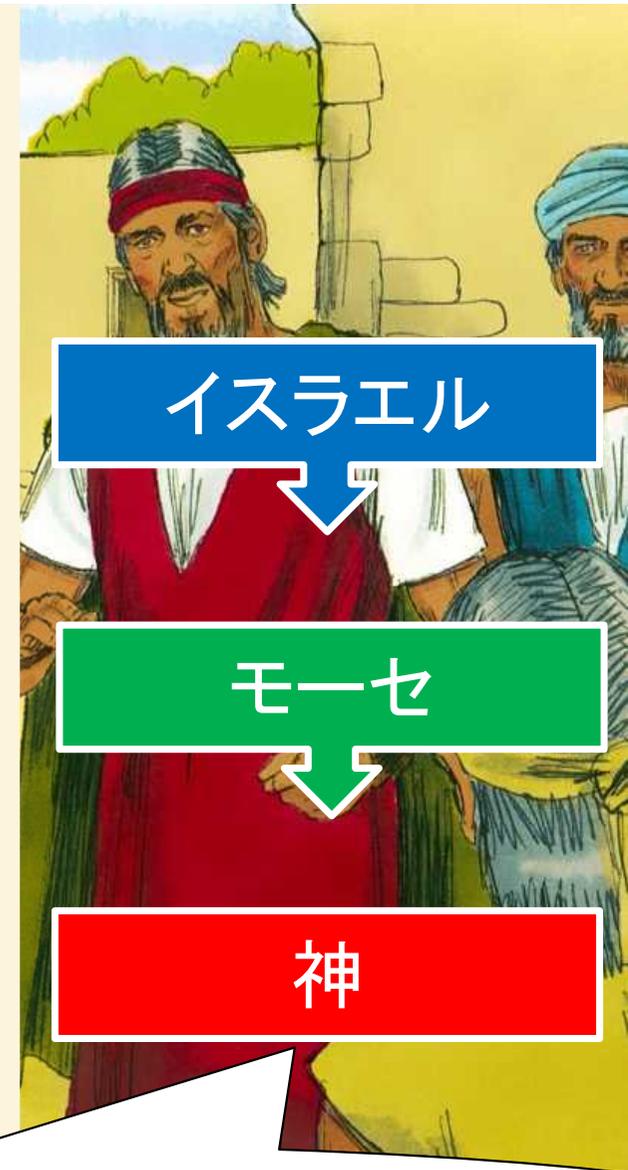
■ 人夫がしらは、怒りの矛先を**モーセ**に向けた!!

「【主】があなたがたを見て、さばかれますように。あなたがたはパロやその家臣たちに私たちが憎ませ、私たちが殺すために彼らの手に剣を渡したのです。」

■ 窮地に陥った**モーセ**は、必死に**主**に訴えかけた!!

「主よ。なぜあなたはこの民に害をお与えになるのですか。何のために、私を遣わされたのですか。私がパロのところに行って、あなたの御名によって語ってからこのかた、彼はこの民に害を与えています。それなのにあなたは、あなたの民を少しも救い出そうとはなさいません。」

はからずしも、これが最初のとりになしに!!



Ⅲ. 確認される使命

出エジプト記6章



【主の答え】 出 6:1～3

それで【主】はモーセに仰せられた。「わたしがパロにしようとしていることは、今にあなたにわかる。すなわち強い手で、彼は彼らを出て行かせる。強い手で、彼はその国から彼らを追い出してしまおう。」

神はモーセに告げて仰せられた。「わたしは【主】である。わたしは、アブラハム、イサク、ヤコブに、全能の神*として現れたが、【主】という名では、わたしを彼らに知らせなかった。」

* エルシャダイ ...イスラエルを生み育んだ神の御名。

■ 「わたしはある」というヤハウエの名の意味を知った民は、共におられる神について、体験的に知っていくことになる。



【主の答え】 出 6:2～3

6:4 またわたしは、カナン之地、すなわち彼らがとどまった在住之地を彼らに与えるという契約*を彼らに立てた。

6:5 今わたしは、エジプトが奴隷としているイスラエル人の嘆きを聞いて、わたしの契約*を思い起こした。

* アブラハムへの約束・**アブラハム契約**のこと

■ アブラハムの子孫イスラエルを、

①繁栄させ、②約束の地を与える。

■ イスラエルは400年、異国で奴隷の苦しみを味わった後、多くの財産をたずさえて、解放され、帰還する!!

■ ヤハウェなる神は、絶対に約束を守る神である。



【契約に基づく神の宣言】 出6:6~8

「それゆえ、イスラエル人に言え。わたしは【主】である。わたしはあなたがたをエジプトの苦役の下から連れ出し、労役から救い出す。伸ばした腕と大いなるさばきとによってあなたがたを贖う。

わたしはあなたがたを取ってわたしの民とし、わたしはあなたがたの神となる。あなたがたは、わたしがあなたがたの神、【主】であり、あなたがたをエジプトの苦役の下から連れ出す者であることを知るようになる。

わたしは、アブラハム、イサク、ヤコブに与えると誓ったその地に、あなたがたを連れて行き、それをあなたがたの所有として与える。わたしは【主】である。」



神がイスラエルを解放し
民は体験的に神を知る

【モーセを拒むイスラエル】 出6:9～

■ モーセは、イスラエルに主の言葉を伝えたが、落胆し、労役で疲弊した民は、耳を傾けなかった。

■ 「同胞すら聞かないのに、どうしてパロが聞くのでしょうか。」

またしても自分の口下手を理由に、主に訴えるモーセ。

■ 主は再度、パロに言うべき言葉をモーセに告げられた。

■ 6:14～26では、系図が記される。

ヤコブの長子ルベンから、次男シメオン、三男レビ。

三男レビから、**モーセ**、**アロン**にいたるまでの系図。

⇒ モーセとアロンの正当性を民に示すもの!!



【モーセに至る系図の意味】 出6:14～27

■モーセの正当性を示す!! 二つの確かなつながり!!

①家系のつながり・血の継承

アブラハム ⇒ ヤコブ ⇒ **レビ** ⇒ ゲルシオン ... コラ ⇒ **モーセ**、アロン
(祭司の一族)

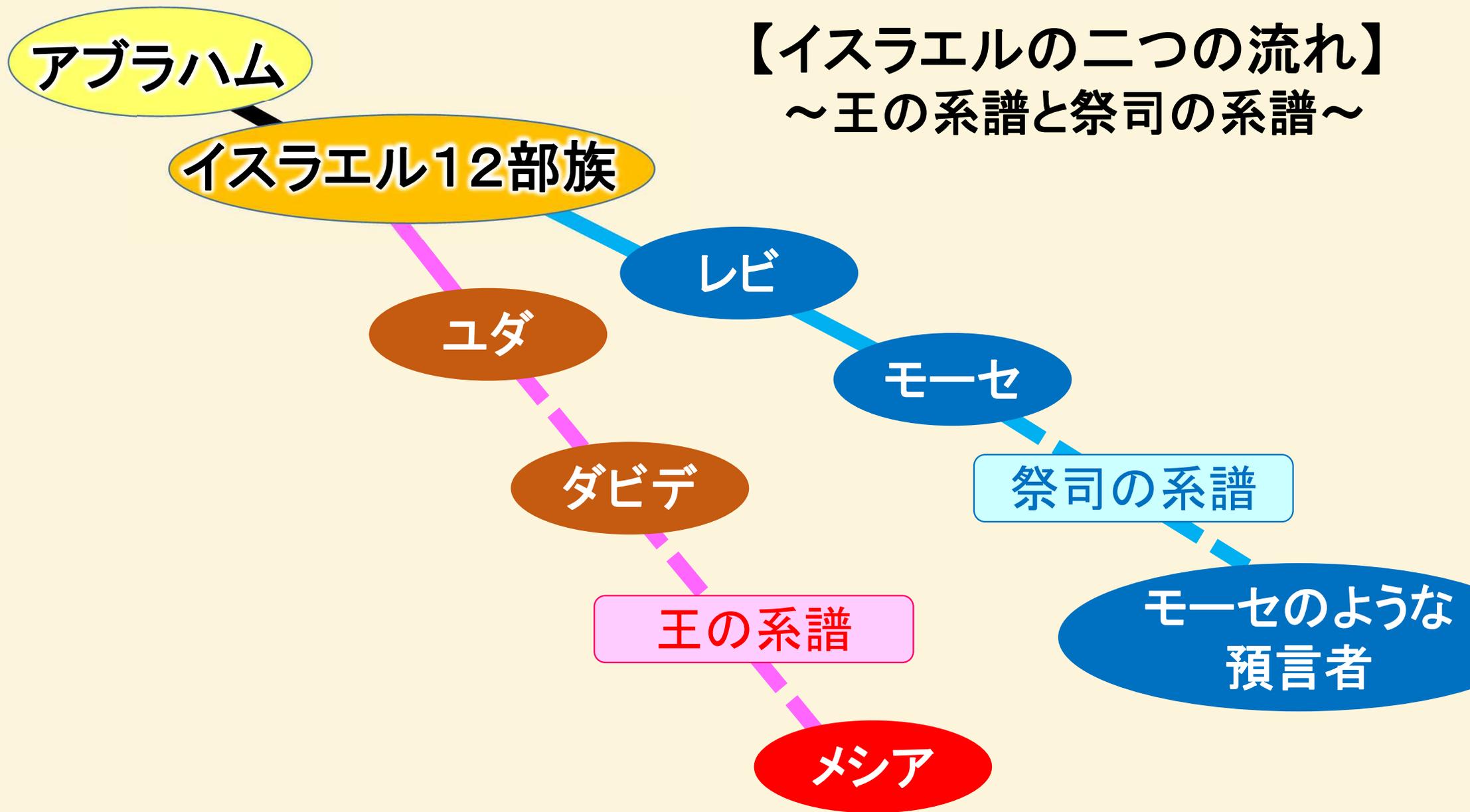
②契約のつながり・約束の継承

アブラハム契約 ... 子孫の約束、土地の約束、祝福の約束

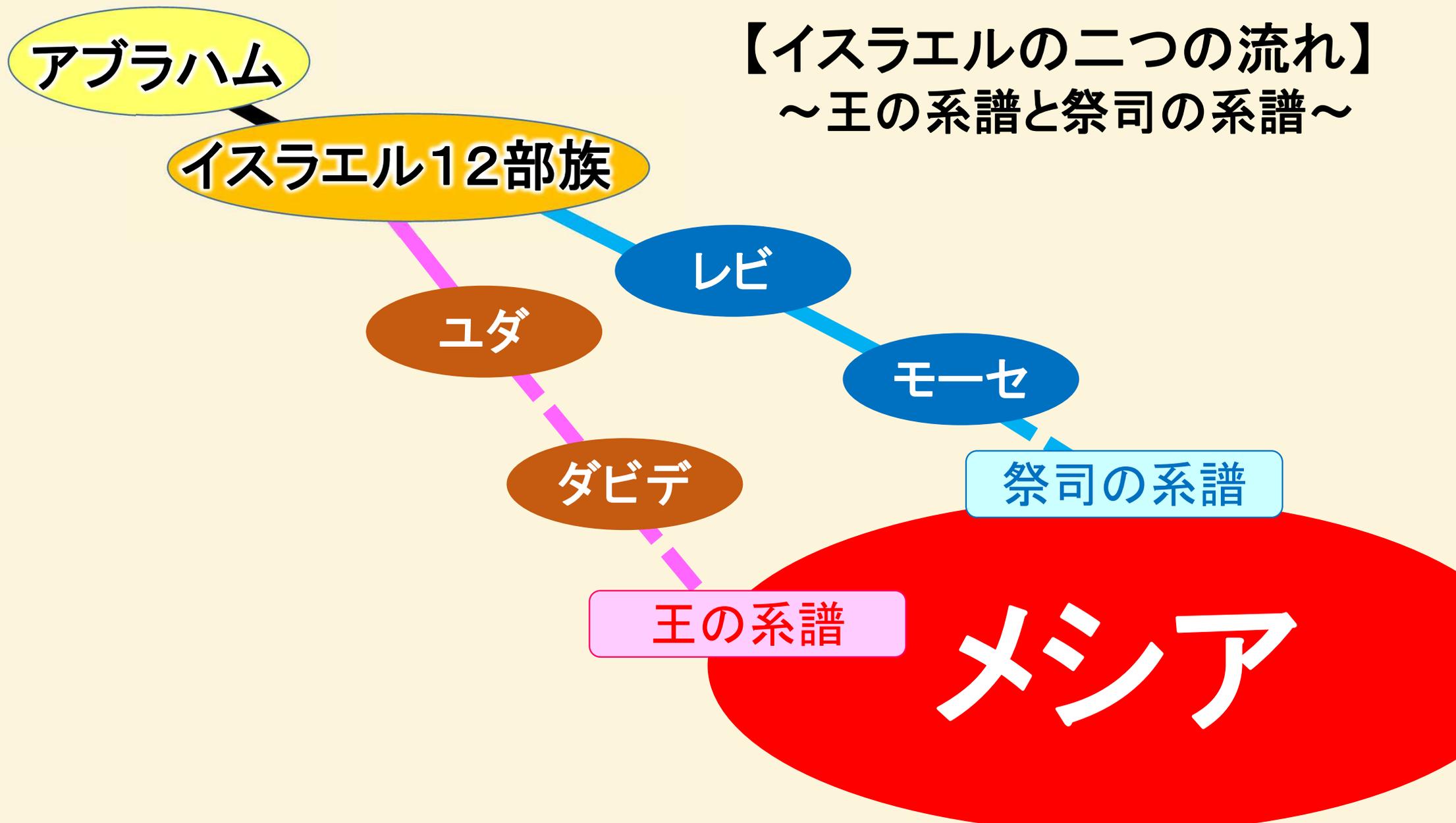
※モーセは、アブラハム契約の守護者として選び出された。
このはるか先に、救い主イエスの誕生がある。

■神は、約束を守る方であることを示す!!

【イスラエルの二つの流れ】 ～王の系譜と祭司の系譜～



【イスラエルの二つの流れ】
～王の系譜と祭司の系譜～



Ⅲ. 下される災い

出エジプト記7～10章



【主の命令】 出7:1~7

【主】はモーセに仰せられた。「見よ。わたしはあなたをパロに対して神とし、あなたの兄アロンはあなたの預言者となる。」

■ 主は再度、イスラエルの解放をパロに告げよと、命じられた。

■ その経過と結果も、モーセに告げられた。

- ①パロの心は、かたくなにされ、モーセの申し出を拒む。
- ②主は、奇跡を行い、エジプトに裁きを下す。
- ③最終的に、イスラエルは解放され、身をもって主を知る。

「そこでモーセとアロンはそうした。【主】が彼らに命じられたとおりにした。彼らがパロに語ったとき、モーセは八十歳、アロンは八十三歳であった。7:6~7」



【パロとの対決】 出7:8～25

- パロの前で、モーセとアロンが杖を投げると、蛇になった。
⇒パロは呪法師に命じ、同じことをさせた。
しかし、アロンの杖が、彼らの杖を飲み込んだ。
- それでも、パロの心はかたくなになり、聞き入れなかった。
- 翌朝、モーセはパロの前で、ナイルの水を杖で打った。
ナイルの水は血に変わり、魚は死に絶えた。
エジプト中の水が飲めなくなった。
⇒呪法師たちも同じことをした。
- パロの心はかたくなになり、7日間、この状態が続いた。

これ以降、エジプトに神の裁きが次々と下されていく!!



【災いにすら示された神の秩序】 3回×3セット +1(最後の災い) =10

- ①血
 - ②かえる
 - ③ぶよ(害虫)
- (呪法師も模倣)

- ・エジプト全土
- ・煩わしいもの
- ・アロンの手

- ④あぶ(昆虫)
- ⑤家畜の疫病
- ⑥腫瘍

- ・エジプト人のみ
- ・苦痛なもの
- ・神の手

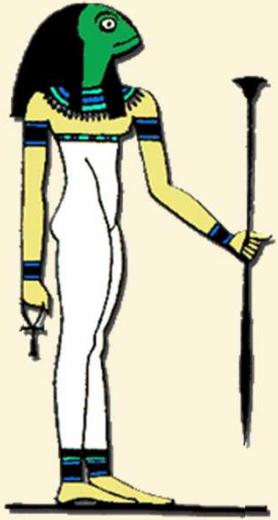
- ⑦雹(ひょう)
- ⑧いなご
- ⑨暗闇
- ⑩初子の死

- ・エジプト人のみ
- ・悲痛なもの
- ・モーセの手

★各セットのパターン★

- ①モーセが朝、パロの前に立つ
 - ・【警告あり】
- ②モーセがパロの前に立つ(時間は不明)
 - ・【警告あり】
- ③モーセはパロの前に立たない。
 - ・【警告なし】

【十の災いで裁かれたのは、エジプトの数百ある偶像の神々】



ヘクト(カエル神)



ケプリ
(フンコロガシ神)



セラピス
(癒やしの神)



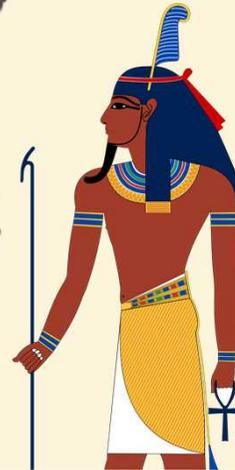
クアトウテット
(害虫から
守る神)



イシス(豊穰神)



セクメット
(疫病の神)



シュー
(天空神)



ラ(太陽神)

パロが頼る、これらの偶像には、何の力もないことが明らかに!!

【日本で言うと?!】



これらの偶像にも、やはり、何の力もない!!



...人間が考え出す神々は、古今東西、似たようなもの

【偶像礼拝とは？】

■ エジプトには、数々の神々がいた。その頂点がパロ。

■ **偶像** → 自然を観察して、人間が作り出したもの。

※ 人間からみた、世界の解釈 ⇒ 神話

※ 偶像 = アイドル ... 自分に都合のよい存在



■ 偶像礼拝の本質は、人間中心、自己中心。

■ そして、罪の本質は、自分中心。

★ 究極の偶像礼拝は？

⇒ 自分自身を神とすること。

十の災いは、偶像礼拝という
人の罪の本質を教えるもの!!



IV. まとめと適用

偶像から解放されて
神の自由を味わい知ろう

【今、揺り動かされる世界の中で】

■ 新型コロナウイルス、バツタの害、株価の崩壊、大恐慌の序章？

未曾有の災厄が、世界を襲っている。

しかし、主イエスによれば、まだまだ、終わりの始まりに過ぎない。

■ 今、揺り動かされているものとは？

健康、豊かな生活、富、思い通りの人生…。人々が頼ってきたもの。

⇒人々がすがり、頼る、これらのものすべては、一種の偶像。

■ エジプトを襲った災厄は、偽りの偶像を裁き、真実の神の名を告げた。

全知全能の神は、今の災厄のすべてをも支配しておられる。

⇒私たちが、知るべきも、真実の神、主なるヤハウェの御名。

【今こそ、立ち返るべきところに、立ち返ろう】

- 世界は、ますます混沌とし、闇は深まっていく。
しかし、この時代すら、神の目には、「救いの時、恵みの時。」
- すべての人は、罪のゆえに滅びに定められているが、
ただ、主イエスの十字架の贖いと復活を信じて、救われる。
今、すべてのクリスチャンが、告げ知らせるべきは、この福音。
- 困難の中にあるクリスチャンに求められているのは、
モーセのように、主に従う道へ、決意して歩み出すこと。
- 主に従うならば、恐れるものは何もない。
与えられた使命を果たせるように、主が必ず助けられる。

■ 何もないところから、主に従って歩み出したそのときから、いつでも失われることのない平安がある。

■ 主のご計画は必ず果たされる。

わたしに与えられた使命が、成し遂げられるまで、主が、何があっても守ってくださる。

■ たとえ、わたしが、病に倒れても、この身が滅んでも、主のご計画は、妨げられることはない。そこに、ゆるぎない平安がある。

■ 主の道へ、一歩、踏み出そう。主が応えてくださる。

「天のお父さま。

わたしは、御子(みこ)イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがな)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信(しん)じます。

混沌(こんとん)とした、この時代(じだい)のただなかで、

主が、わたしたちひとりひとりを 召(め)してくださっています。

あなたのご計画(けいかく)は、すべて完全(かんぜん)に

なしとげられると信頼(しんらい)します。主の代理人(だいにんにん)として、

モーセのように、ここから、わたしを遣(つか)わしてください。

主(しゅ)イエス・キリストの 御名(みな)によって 祈ります。

アーメン」